

入試種別に基づく追跡調査について（2013年度－2017年度）

直近の2020年度卒業生が入学した2017年度入試から、過去5年に遡って卒業状況と学籍異動状況を調査した。この間3048名の学生を受入れ、修業年限の4年間(48ヶ月)で卒業した学生は2376名(78.0%)、退学・除籍で異動した者は489名(16.0%)となっている。以下各年度、入試制度、学科別に状況を記載する。

【各年度別】

- ・4年間(48ヶ月)で卒業している割合は2013年度から順に78.8%、77.0%、75.6%、79.6%、78.5%と推移しており、平均すると78.0%である。
- ・退学した者は2013年度から順に13.5%、14.8%、15.5%、11.1%、9.4%と推移しており、平均値は12.9%となる。直近は平均値より低下する傾向が見られる。

【入試制度：AO入試】

- ・4年間(48ヶ月)で卒業している割合は2013年度から順に72.4%、68.6%、62.1%、65.6%、67.7%と推移しており、平均すると67.7%である。全制度の平均である78.0%と比して10.3%低い。
- ・退学した者は2013年度から順に17.1%、19.0%、26.4%、18.3%、12.1%と推移しており、平均値は18.4%となる。全制度の平均である12.9%と比して5.5%高い。

【入試制度：推薦入試】

- ・4年間(48ヶ月)で卒業している割合は2013年度から順に79.9%、82.2%、80.4%、83.1%、82.3%と推移しており、平均すると81.5%である。全制度の平均である78.0%と比して3.5%高い。
- ・退学した者は2013年度から順に11.7%、11.2%、11.6%、9.9%、8.7%と推移しており、平均値は10.6%となる。全制度の平均である12.9%と比して2.3%低い。

【入試制度：センター入試】

- ・4年間(48ヶ月)で卒業している割合は2013年度から順に90.8%、82.1%、77.6%、79.8%、82.9%と推移しており、平均すると83.5%である。全制度の平均である78.0%と比して5.5%高い。
- ・退学した者は2013年度から順に7.9%、12.5%、13.3%、9.6%、7.3%と推移しており、平均値は10.0%となる。全制度の平均である12.9%と比して2.9%低い。

【入試制度：一般入試】

- ・4年間(48ヶ月)で卒業している割合は2013年度から順に72.6%、72.6%、74.8%、83.6%、75.7%と推移しており、平均すると75.2%である。全制度の平均である78.0%と比して2.8%低い。
- ・退学した者は2013年度から順に17.7%、18.5%、16.8%、9.1%、10.3%と推移しており、平均では15.0%となる。全制度の平均である12.9%と比して2.1%高い。

【学科別（5年間）】

- ・修業年限である4年間(48ヶ月)での卒業率を見ると、全体平均(78.0%)と比較しこども発達が87.9%と非常に高い比率となっている。一方で経営(74.6%)・臨床(75.1%)・英米(76.7%)が低い状況である。
- ・全体的にAO入試と一般入試の修業年限卒業率(それぞれ67.7%・75.2%)が低いが、とりわけAOでは英米(61.7%)、経済(64.9%)、一般では経営(67.0%)、臨床(71.0%)が低い状況となっている。
- ・退学は、全体平均(12.9%)と比してAO(18.4%)と一般(15.0%)が高い。学科別では臨床が15.9%と高く、一方で、こども発達学科の7.7%が低い状況である。